

【お知らせ】

2026年2月26日
三菱ふそうトラック・バス株式会社

ヤマト運輸の幹線輸送で運転自動化レベル2+技術搭載のセミトレーラーによる走行実証を実施

車両性能や安全性、実用化に向けたオペレーションなどを検証

三菱ふそうトラック・バス株式会社は、自動運転の実用化に向けた取り組みとして、ヤマト運輸株式会社および株式会社ティアフォーと共同で、運転自動化レベル2+（部分運転自動化）※1技術搭載のセミトレーラーを使用した幹線輸送の走行実証を実施しました。本実証では、ヤマト運輸が実際に輸送する荷物を積載し、車両性能や安全性、実用化に向けたオペレーションなどを検証しました。

本実証で得られた走行データや運用ノウハウは、自動運転技術のさらなる精度向上に活用します。将来的には、自動運転レベル4（高度運転自動化）※2技術搭載のセミトレーラーをヤマトグループの幹線輸送で実用化することを目指します。



■ 実証概要

実証期間：2026年2月16日（月）～2026年2月20日（金）

運行区間：羽田クロノゲートベース（東京都大田区）－関西ゲートウェイベース（大阪府茨木市）間
（約 500 km）（2 往復・4 運行）

※ 実証区間は新東名高速道路 駿河湾沼津 SA～浜松 SA 間（約 100km）

■ 検証内容：

1. 車両性能と安全性

- ・大型連結車両（トレーラー）特有の揺れや軌道などの動きの詳細をデータ化しました。
- ・手放し走行率や車線逸脱の有無などの詳細をデータ化し、安定した走行性能を確認しました。
- ・ドライバーによる手動介入が発生した際の周辺状況、判断基準、介入の傾向を分析しました。

2. 走行時間

- ・手動運転での通常運行時と比較し、遅延なく計画どおりに運行できることを確認しました。

3. オペレーション

- ・運行前点検の自動化に向けたオペレーションの検討として、タイヤの状態確認など、点検項目の一部を自動化する仕組みを試行しました。
- ・自動運転レベル 4 の実証を見据え、遠隔地から車両状態や周辺環境を監視する業務を行いました。



<走行実証で使用了した運転自動化レベル2+技術搭載のセミトレーラー>



<羽田クロノゲートベースに着車している様子>



<高速道路走行の様子>



<運転席の様子>

■ 走行実証に参加したドライバーのコメント

最初は緊張しましたが、自動運転機能の特性などを理解するにつれ、安心して運行することができました。将来の輸送力維持に向けて、自動運転トラックが私たちの仕事を支える未来のパートナーとな

ってくれることを期待します。



<初運行に乗務したドライバー>

- ※1 ドライバーが乗車し、いつでもハンドルを保持し直せるような状態で走行すること
- ※2 場所や天候、速度などの特定の条件下で、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態のこと

【参考】

国土交通省：令和7年度「自動運転トラックによる幹線輸送の社会実装に向けた実証事業補助金」の交付決定（2025年10月10日）

URL：https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000949.html

<プレスリリース>

国土交通省の「自動運転トラックによる幹線輸送の社会実装に向けた実証事業」で、自動運転セミトレーラーによる幹線輸送の共同実証が採択（2025年10月10日）

URL：https://www.yamato-hd.co.jp/news/2025/newsrelease_20251010_1.html